

新宿七福神初詣で報告 (令和 2 年 01 月 11 日) (土)

本日の計画は当初、千葉の「とみやま」へ水仙を見に行く予定だったが、今年の台風 19 号によって、花に大きな被害があったために花付きが悪いとのことで、「二宮：吾妻山」に菜の花を見に行くことに変更された。しかし、ここも菜の花には少し早すぎるのではないかと、たまたま小生が「こんなのがありました」と言って持ち出した「鎌倉七福神」と「新宿七福神」が注目されてしまった。「正月だから、“初詣で”と“新年会”とを併せて『新宿七福神巡り』にしよう」と決まった。

これは元旦に配布の「東京都 広報 (第 893 号) :『新宿山ノ手七福神めぐり』の記事」を見つけて、面白そうなので、早速東京都の地図と首っ引きでコースを調べて、先週に一回りしたものを提案した次第である。ルートは最後に新宿で新年会をやるために、飯田橋から東新宿へ進むことになった。

三浦さんからもビスターリの皆さんに参加を呼び掛けたが、Aさんは友人と新年会、Oさんのご用があり、Nさんは正月で孫が来るので、Yさんも既に予定が決まっていると、女性陣ではGさんは西穂高へ、Mさんは八ヶ岳・硫黄岳へと、ご都合の悪い方たちばかりであった。どうも暇があるのは年寄りだけのようです。

夕方からの新宿での新年会に合せて、“12 時大江戸線牛込神楽坂駅改札口集合”とした。天候は“午前中は曇り、午後には晴れてくる”との予報だったので、丁度良い。連絡の無かった人が現れるのを期待していたが、12 時に集合したのは伊藤、三浦、陽田の 3 名のみ、でも元気に出発しましょう。

牛込神楽坂駅の長い地下通路を歩いて神楽坂通りへ出ると、結構な人出だ、しかも“粋筋(?)”か初釜から帰る所か優雅な着物姿のご婦人が目立つ。鎌倉八幡宮辺りでは、ぺらぺらの派手派手の着物の若い女性が多いが、やはりここでは歴史の違いを感じさせる。

最初は「善国寺」で「毘沙門天」です。皆さん上杉謙信で御存じの“守護神”だが福德、知恵、美貌、力などを与える、インドから来た神様です。神楽坂という地盤を持ち信奉者も多いのか、大きな山門を持ち本堂伽藍も立派だ。両側には狛犬ならぬ“狛虎”が控えていた。

神楽坂を少し戻って“大久保通り”へ出て、ひたすら西へ向かう。長いゆるい下り坂を牛込柳町交差点まで下って少し登り返すと「経国寺」に着いた。ここのお寺さんは狭い境内で、脇に間借りしたように小さな建物がある。こちらは「大黒天」でインド出身の福德を授ける心優しい神様と。その証拠に置いてある“打ち出の小槌”を 3 回振って願い事をすると叶えてくれるという。寺の裏の墓地の中に、長崎で被爆した楠の実生の二代目の木が植えられてあったのは興味深い。

牛込柳町信号を右折して、道路拡張中の外苑東通りを南下する。拡張により電柱・電線が無くなってすっきりしている。自衛隊の市ヶ谷駐屯地／警視庁第五機動隊の建物を左手に見ながら、合羽坂の交差点を右折、靖国通りへ出る。時刻は丁度 13 時、まだ 2/7 だ。

またもや靖国通りのゆるいが長い登り道を西進する。途中、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン、日本に帰化、『怪談』の著作で有名）の旧居跡という新宿区の案内表示板があった。新宿一北の信号を左折して、新宿御苑のすぐ前の「太宗寺」へ出る。

ここは広い境内を持ち、伽藍も大きい。ここの「布袋和尚」は中国の禅僧で、お馴染みの“太鼓ッ腹”で抱えた大布袋には福財を詰めている。しかし今日は正面の格子戸は閉まっている。格子の間から覗くと小さなご神体があった。御朱印を貰う人はどうするのだろうと思ったら、奥の方の社務所で受けるらしい。本堂脇の小さなお堂に真っ白のお地藏さんがおわす。「塩かけ地藏」という名前だと、どのような謂れかと案内板を探したら「願を掛けて、願いが叶ったらお礼に塩を掛ける」のだそうだ。

さて、残りの四福神は、比較的まとまった地域にお座す。次は「法善寺」だ。一旦靖国通りから少し東へ戻って北へ細い路地に入る、東京医科大学の建物を回り込むように、クランクに歩くのだが、学校の間道の道を早く曲がってしまったために、分からなくなってしまった。少し戻り番地を辿りながら、目的の「まねき通り」という細い道を探した。途中でやはり迷ったのか、携帯で相方を探している年配ご婦人グループに会った。道は割合すぐ見付き、進むと境内の入口がよく似ているお寺があった。しかし“七福神”の幟が出ていない、もう仕舞ってしまったのか、奥へ進んで社務所で訊くと、もう少し先だと教えてくれた。前回の経験が生かされず、ここで二回も間違えてしまった。

「法善寺」は中国からお出でになった「寿老人」だ。お名前のとおり、不老不死の薬を持ち長寿の神様だ。隅のほうの普通のお家の中に鎮座していた。

目と鼻の先の「抜弁天」交差点に「巖島神社」がある。日本の唯一女性の神様「弁財天」が祀られている。勿論お金、五穀豊穡の神様です。こちらも行ってみたら、出張社務所もお社の扉も閉まっていた。少し離れた所の「西向天神社」が“本宅”なのか、御朱印を貰うにはここまで行かねばならない。ところで、時々約 30cm 角の色紙を入れた紙袋を持った人がいたが、この色紙は¥3,000、御朱印は一か所で¥1,000 です、従って七か所回ると¥10,000 也です。

抜弁天交差点の向う側すぐに「永福寺」があり、「福祿寿」様はここに小さなお社で間借りしていた。長一い頭で中国から着た神様で長寿の神様です。

いよいよ最後に“職安通り”を西方向に向かい、“区役所通り”に面した「稻荷鬼王神社」へ着く。ここには鯛と釣り竿を持った日本の「恵比寿神」が奉られている。海の守りと商売繁盛の神様です。ここに澄んだ音を奏でる「水琴窟」が二か所もあった。日本の神様がお座す神社のみ“自前”で、中国、インドから来られた神様はお寺さんに間借りしていた。15時に参詣が終わった。

ここから歌舞伎町を通り抜け、15時20分から新宿駅西口のお馴染み「ライオン」で反省会をした。話題の中心はビスターリとして、これからどう参加者を増やすことができるかであった。勿論すぐ良案が出た訳ではないが、17時に散会した。皆さま、是非貴重なご意見をお出しください。